

乾側をよくする会

1 基本データ

- 地区名 乾側地区
- 人口 1,062人
(平成22年7月1日現在)
- 面積 10.51k㎡
- 地区の沿革

乾側地区は、市街地の西部に位置し、地区西端にある花山峠を境に福井市に接し、地区中央の東西を国道158号線が横断しており、大野市の西の玄関口となっている。

8集落からなり戸数約230戸で、酒米と種籾産地として有名な純農村地域である。

- 実施主体
乾側をよくする会

2 現状と課題

乾側地区は縄文時代から人々が住み始め、大野でも最初に開けた場所のひとつである。弥生時代や古墳時代には牛ヶ原を中心に大きな力を持った豪族が現れ、乾側地区内に多くの墓や古墳が作られた。中でも牛ヶ原の山ヶ鼻古墳群には奥越で唯一の前方後円墳があり、鉄剣や貨幣(和同開珎)も見つかっている。なお、大野盆地内の古墳のうち6割以上が乾側地区に集中している。

また、稲作が始まり、奈良時代には寺や貴族・豪族の土地である荘園が発達したが、牛ヶ原の荘園は、奈良時代には奈良東大寺領、平安時代には京都醍醐寺領として、今の大野市街地の北半分にまで広がっていた。その牛原荘には後に牛ヶ原城が築かれ、三社神社が建立された。なお、尾永見区には、稲作に縁の深い雨乞い踊りが無形民俗文化財として継承されている。

さらに、南北朝時代に築かれた戌山城は、金

森長近によって越前大野城が築かれるまで、戦国時代の激動期を含め200年余りの間、大野とその周辺地域を治める斯波氏、朝倉氏の居城として、県内2番目の多さの畝堀数と奥越最大の規模を誇る山城であり、一乗谷城の東方面の軍事拠点として重要な役割を果たしていた。

このように、乾側地区は古来、大野盆地の中でも最も歴史と伝統のある地域であるが、地域住民自身はその認識が薄いのが実情である。

3 事業の内容

① 史跡説明会

目的 地区民自らが史跡を整備・継承していく事業に取り組むに当たり、まずは史跡についての理解を深める。

日時 11月27日(土) 午後7時～9時
参加者 小学校3年生から80歳まで、約60名が参加

講師 大野市教育委員会文化課

佐々木係長

内容 石器や土器、古墳群、牛ヶ原荘園、牛ヶ原城、三社神社、雨乞い踊り、戌山城





② みくら清水周辺整備

目的 戌山城址の整備の一環として、まずは、その登山口にあたるみくら清水を清掃・修景整備し、駐車スペースも確保する

日時 12月1日(日) 午前9時～正午

参加者 地区民約30名が参加



③ 雨乞い踊り備品整備

目的 市の無形民俗文化財にも指定されている雨乞い踊りは尾永見区の保存会と乾側小学校児童が踊りの継承に取り組んでいるが、太鼓・笛・法被などの必要備品を整備し、継承の取り組みを支援する。

内容 締め太鼓 2基
 締め太鼓用台 2台
 篠笛 2本
 法被 15着



④ 史跡案内・説明看板整備

目的 史跡の案内看板、説明看板を設置することにより、史跡についての理解を深めるとともに、史跡の保存・継承を促進する。

内容 戌山城址案内看板

1枚(登りに設置)

牛ヶ原城址・三社神社案内看板

1枚(登りに設置)

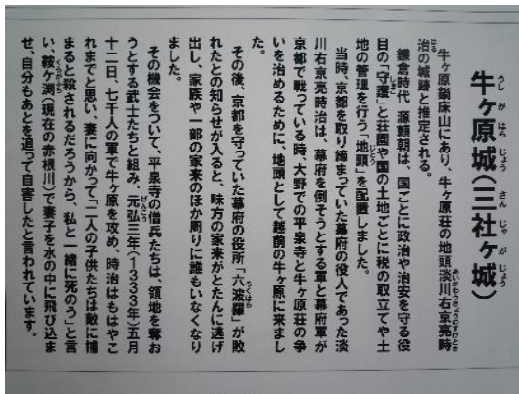
牛ヶ原城址由来説明看板

1枚(現地に設置)

三社神社由来説明看板

1枚(現地に設置)





4 事業の成果

乾側地区の歴史や史跡に対する興味関心が高まり、理解が深まった。

3月の乾側地区各種団体役員等懇談会の席上で乾側小学校児童が揃いの法被を着用して雨乞い踊りを発表し、無形民俗文化財の継承が促進された。

5 今後の展望

来年度以降は、史跡に触れる機会を増やすことを目的として、牛ヶ原城址・三社神社跡地への登山道整備を実施する。

また、戌山城についても、みくら清水～戌山城～飯降山接点の登山道を整備するとともに、上丁～向山(戌山城と飯降山接点との中間地点)の新規登山道を開拓・整備する。

なお、雨乞い踊りについては、城まつりや文化祭、敬老会などの機会を捉えて多くの発表の機会を持ち、継承の取り組みを活発化する。